

柳下亭種員作

第七編

女郎苓五色石臺

一龍齋國盛畫

甘泉堂



^ 13
3729
6

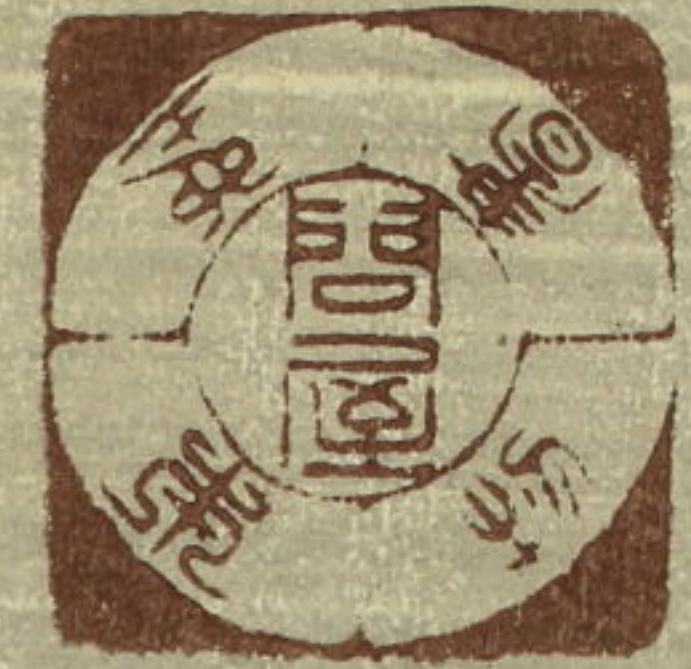




女郎花五色石臺七集上冊  
種員作  
國盛画

甘泉堂  
泉  
甘  
堂

門へ13  
號3729  
卷6



女郎花





歌川國盛画

女郎花 七編  
五色石臺

柳下亭種員作

上

升恩曲五國金

下



柳下亭

種貞作

國書堂画

七の篇

下冊

泉市板

重 一 印

此敗醬五色石臺と綴繼ふ及て熟讀するふ身四集下帙ある鎌倉の執事  
 安房守憲實が闇君女嬭臣の爲ふ非命ふ亡ぶる段ふ至りて止まれり  
 去程ふ前條ふ屢出繡像四個の勇婦重石遲鷲置津岡根等も  
 親の讐言を討われ夫の危急を救ふあり或の愚民を再度とる杯功の殊  
 莫大それれども獨八九邑の小萬のまゝ卷中ふ名を顯く間々曲亭翁  
 の世を辞せし故其所爲の多うとて以是先彼勇婦が比類ある奉動  
 とてまゝ觀染ふせをやくとて銛摩の茶褐色のそれある糸ど夜ぞ逢  
 らぬ播磨もこのの吏説発る遠吠より培長びける犬の話も漸  
 小爲果あつて蒼海王と小萬が争闘一段も又短くあらざるべし

嘉永し卯肇歳

柳下亭種貞記



下冊七の篇



千  
女  
行  
者  
稲  
妻

ち  
び  
ぎ  
の  
あ  
い  
し  
き  
の  
な  
み  
へ  
を  
ん  
ぎ  
や  
ま



あ  
か  
し  
の  
ま  
つ  
の  
の  
ま  
の  
ま  
い  
の  
ま  
い

あ  
か  
し  
の  
ま  
つ  
の  
の  
ま  
い  
の  
ま  
い

女部七編



大見  
岡根

女部七編



女時致  
遅鴛

可  
不  
一  
冊



八の九  
小に邑  
萬の

三條木偶藏  
渾家良津



良  
津  
家  
渾





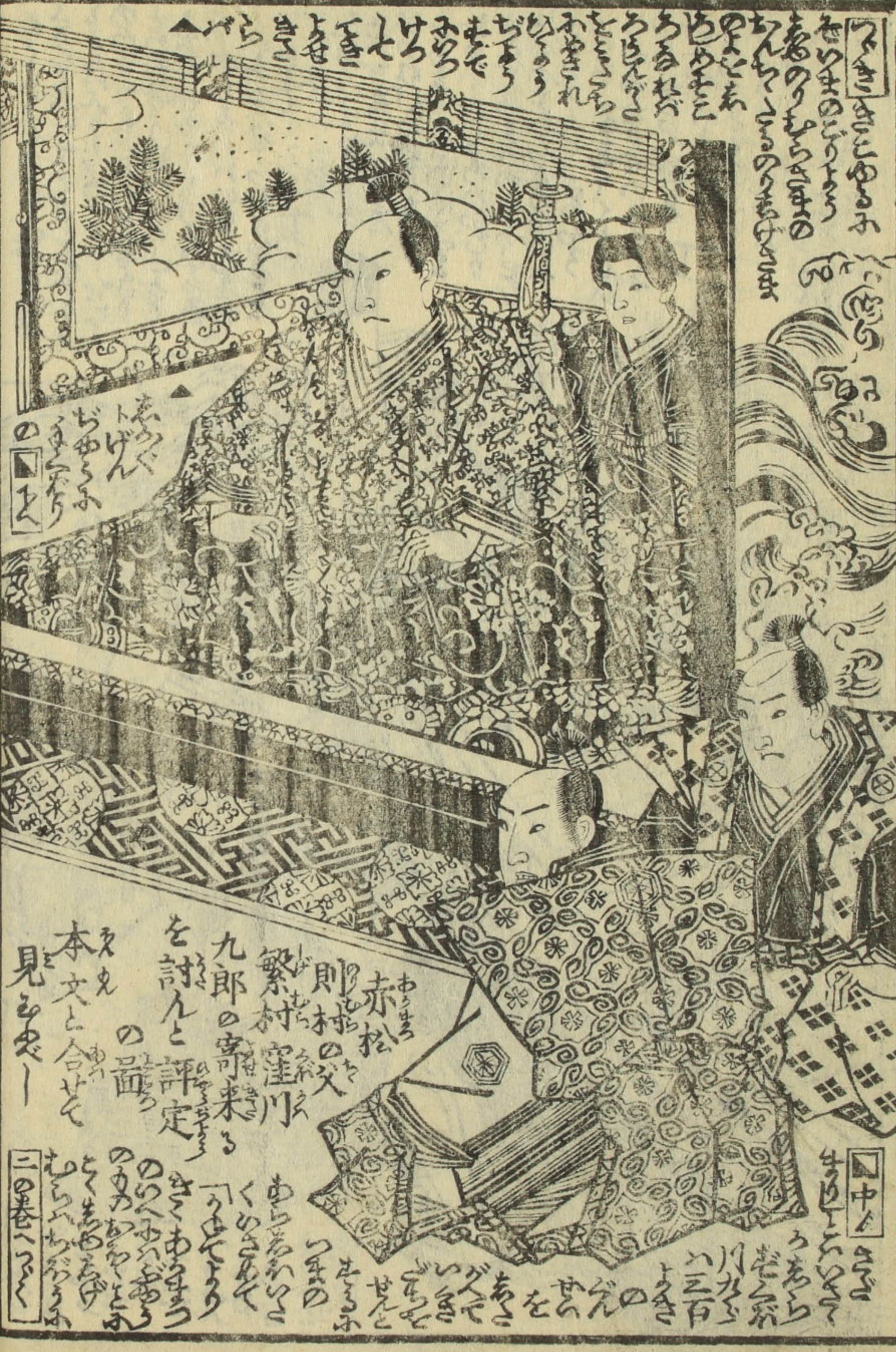


赤松の  
 繁村の  
 九郎の  
 評定の  
 面  
 本文と  
 合せて  
 見よ  
 二の巻  
 八の巻

赤松の  
 繁村の  
 九郎の  
 評定の  
 面  
 本文と  
 合せて  
 見よ  
 二の巻  
 八の巻

赤松の  
 繁村の  
 九郎の  
 評定の  
 面  
 本文と  
 合せて  
 見よ  
 二の巻  
 八の巻

赤松の  
 繁村の  
 九郎の  
 評定の  
 面  
 本文と  
 合せて  
 見よ  
 二の巻  
 八の巻



赤松の  
 繁村の  
 九郎の  
 評定の  
 面  
 本文と  
 合せて  
 見よ  
 二の巻  
 八の巻

赤松の  
 繁村の  
 九郎の  
 評定の  
 面  
 本文と  
 合せて  
 見よ  
 二の巻  
 八の巻

赤松の  
 繁村の  
 九郎の  
 評定の  
 面  
 本文と  
 合せて  
 見よ  
 二の巻  
 八の巻

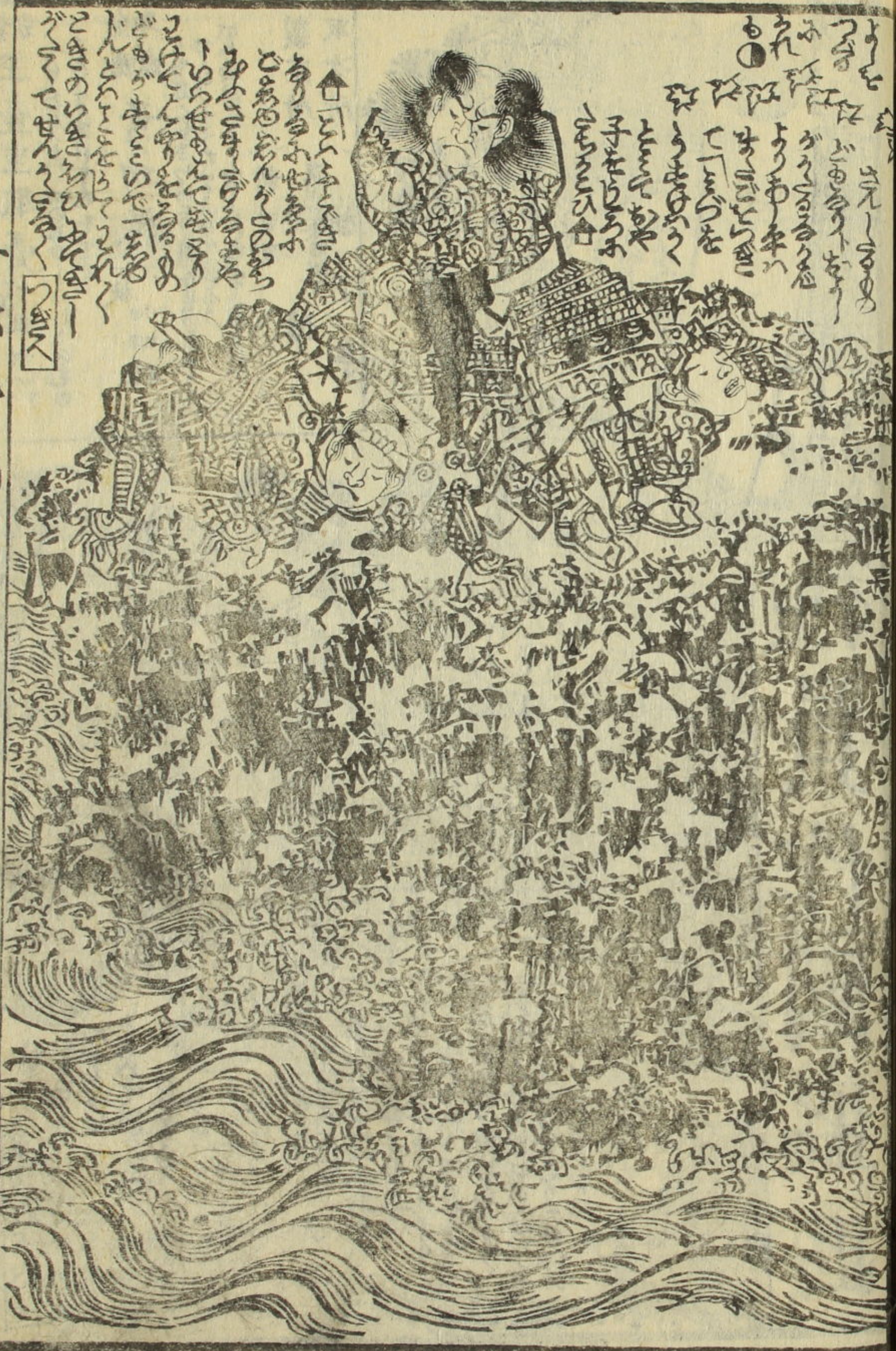




此圖畫之山頭... 凡此等物... 皆由... 故... 其... 之... 亦... 其... 之... 亦... 其... 之... 亦...

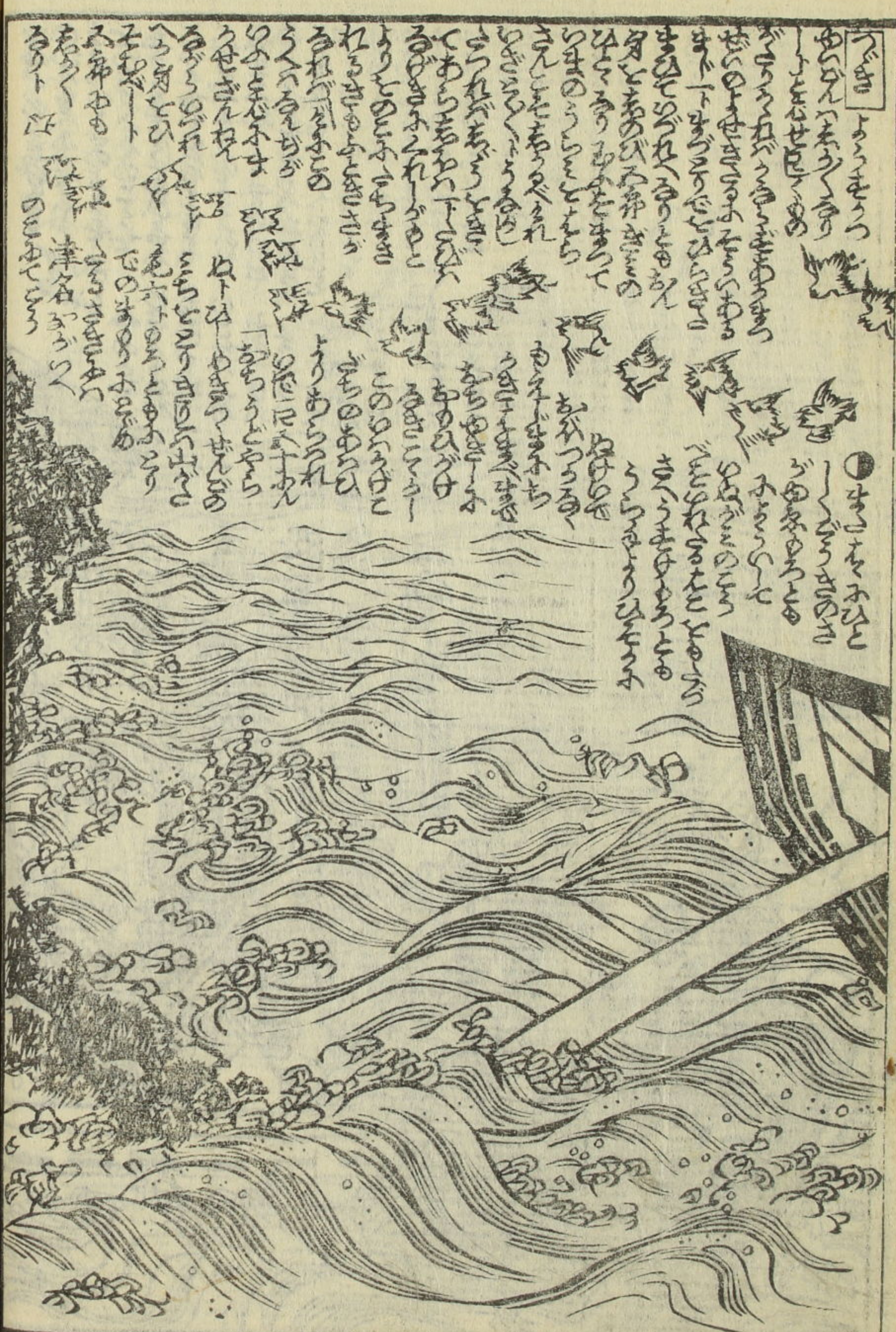
此圖畫之山頭... 凡此等物... 皆由... 故... 其... 之... 亦... 其... 之... 亦... 其... 之... 亦...





女郎世七編

Handwritten text in vertical columns, likely a chapter title or introductory text, located at the top of the left page. The characters are in a cursive style.



Handwritten text in vertical columns, likely a chapter title or introductory text, located at the top of the right page. The characters are in a cursive style.



種員作國盛画



禁  
 方玉壺生肌膏 一具 共六孔  
 金瘡 奇功紙 一枚 共四孔  
 製茶所 新百原 樓  
 取次所 真玉 柳下亭



Handwritten text in the upper left corner of the right page, including a boxed character '羽'.

Handwritten text in the middle left of the right page, including a boxed character '九'.

Handwritten text in the lower half of the right page, including a boxed character '十'.

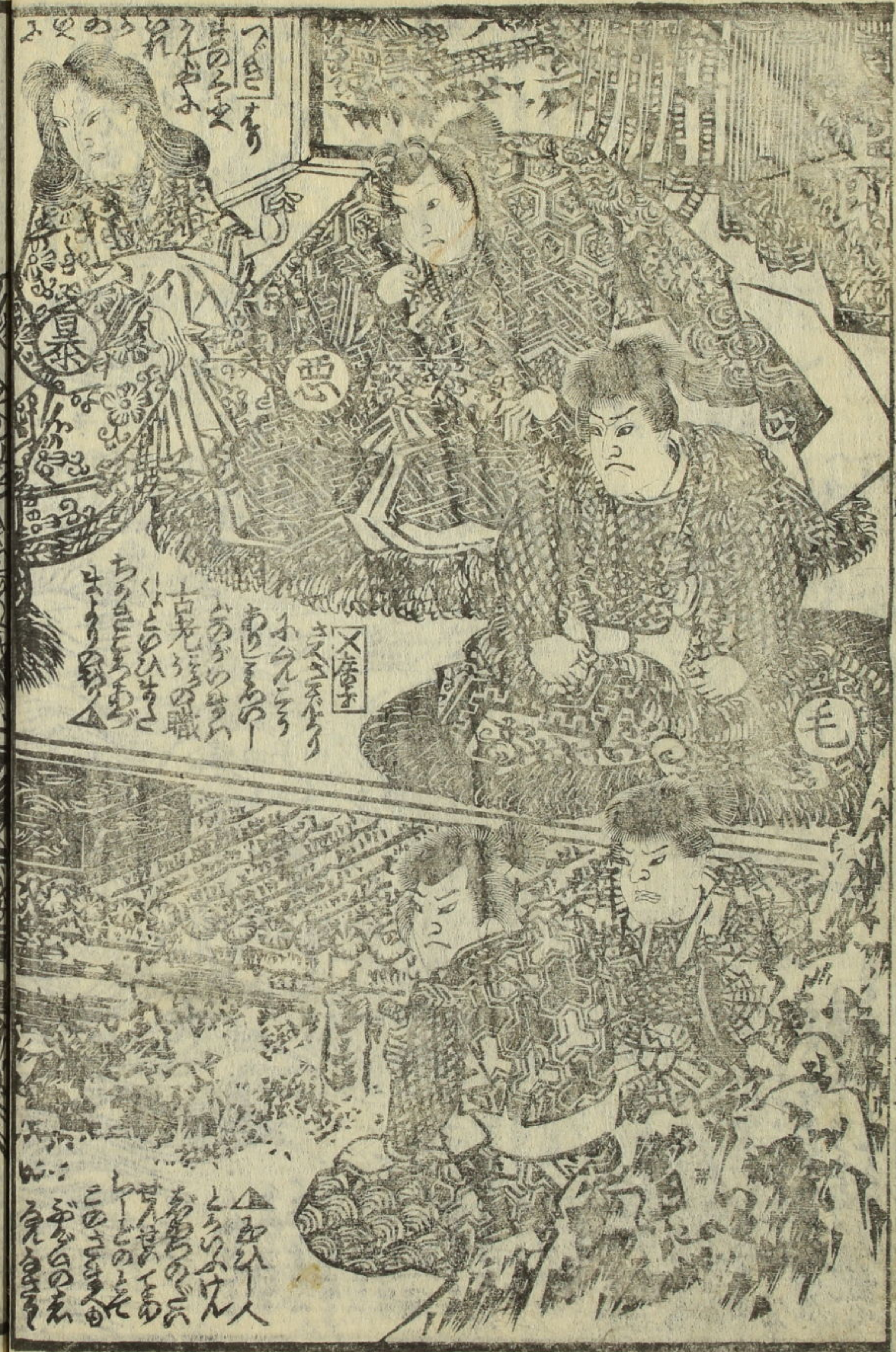


Handwritten text in the upper left corner of the left page, including a boxed character '中'.

Handwritten text in the lower half of the left page, including a boxed character '中'.







ふりまのやんせもあつ  
 らふのちち小き  
 へんあつるんたの  
 きふのつてつち  
 ひらんとあつる  
 まふんあつる  
 るんあつる

△西八人  
 とらひけん  
 あつるの  
 へんあつる  
 ここのまふ  
 がふのま  
 るんあつる

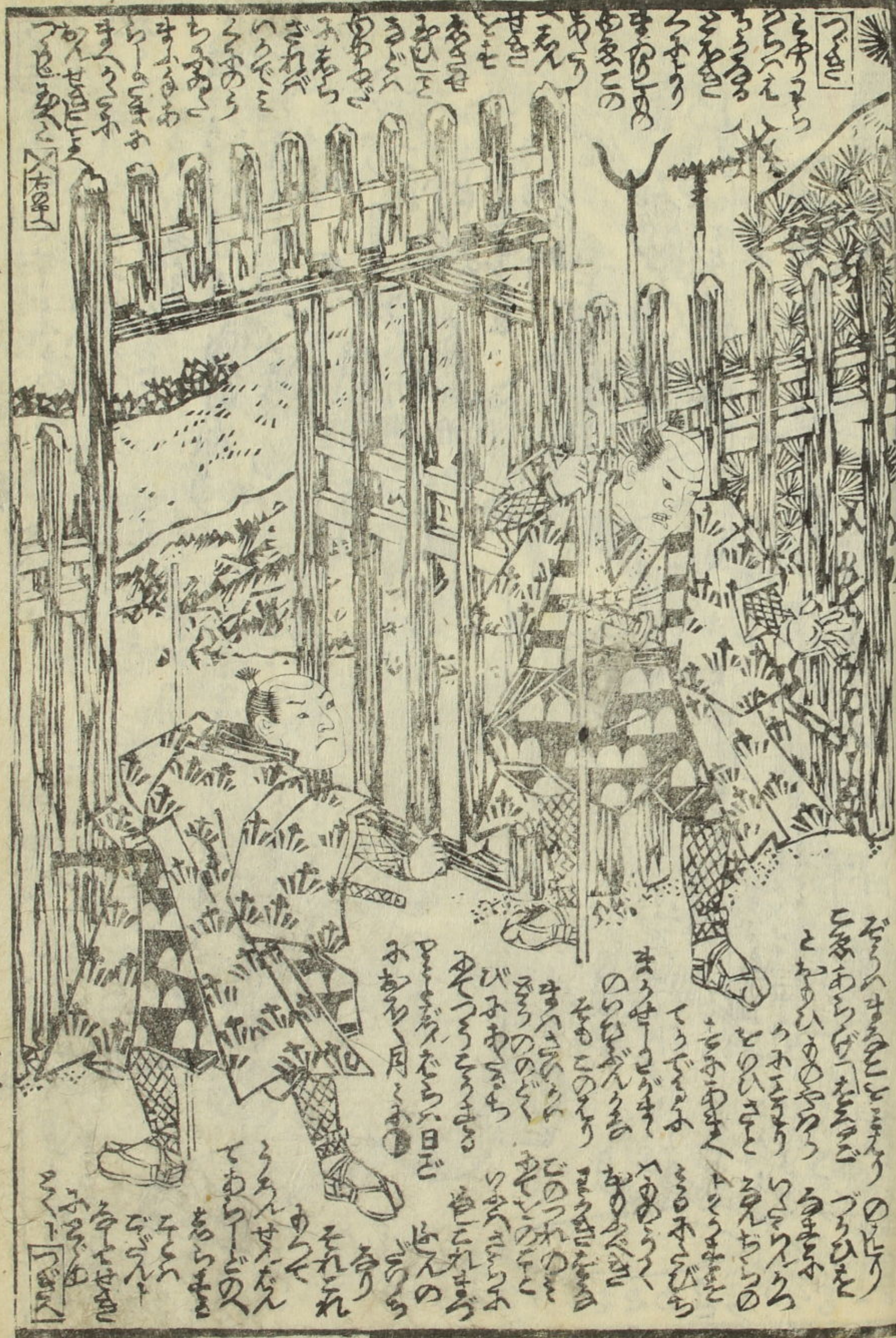


ふりまのやんせもあつ  
 らふのちち小き  
 へんあつるんたの  
 きふのつてつち  
 ひらんとあつる  
 まふんあつる  
 るんあつる

△西八人  
 とらひけん  
 あつるの  
 へんあつる  
 ここのまふ  
 がふのま  
 るんあつる







女良花七

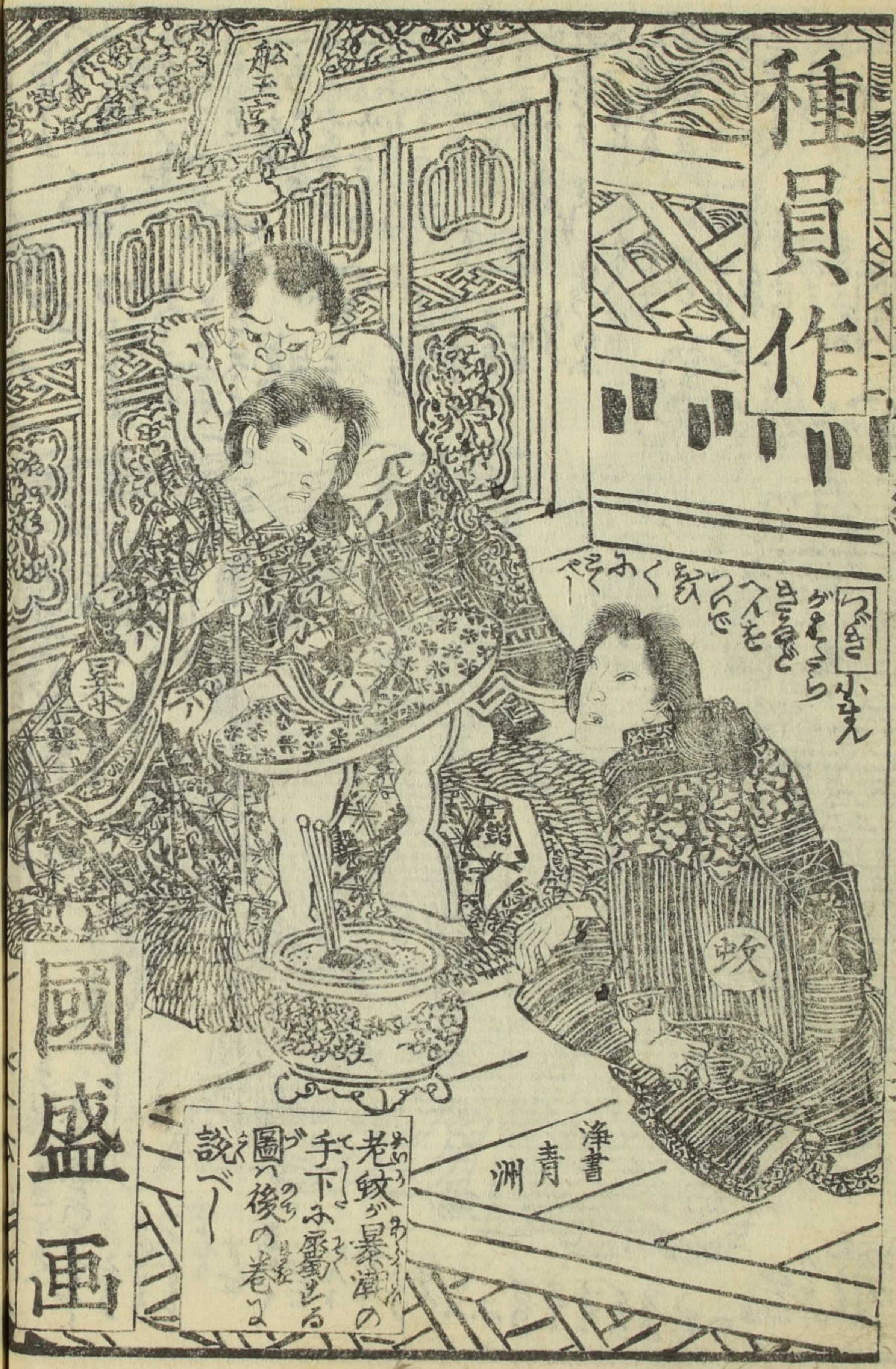
七







# 種員作



## 國盛画

老紋が暴津の  
手下ふ屬する  
圖の後の巻は  
説

浄書  
洲青



# 倭紫鄙視

初編ヨリ追々出版

一筆茶主人作  
一陽齋豊國画

此策のいふ事保元文の頃錦文流の著せし風流源氏物語の叙に  
其の流様々外題ふまじしあり雲のうらあ故を録倉官領の時代  
小節し極まの巻よりして作者一家の叙を録倉官領の時代  
縮めて結局ふまじし其の下の深と久信天翁の編ふれと標有る後  
ありとせむいふも初もこれ細の倭紫家接生著述の本傳の事か家の蔵  
取らむ世評者來者官湯世せとあらはく是より江湖上の公巻と  
冊子皆生々能義ふ倭紫家の今猶然の文政己丑の年より刊行ある所  
十有九年の事始むるは惜しむ可く板毒、烏羽とあるは遠威の地は  
思ひふ都の傳時好不快年毎に編むるは首尾全るゑん此編を  
有るは出板遠澤あはは出本の後と希板元鶴屋喜右衛門謹白





馬琴の巻の中四編の上巻かきの雪あり種負師の物五編下巻分作の先道心と訪ふ五編  
 の孰作せりのを画工の筆機を失ふ吾師の過失あり何れ  
 路鳥を焉と云ある雪て文字を墨めて書と舊湖来の唱哥  
 の意を取て些く鮮朝言を又七編の巻の末暴潮が樓船を視其  
 祠の額に船玉宮と書せり是大神の宮ある其名を伏せ  
 記さぬを大神を船中の王とある心を含め其腹稿を吾も  
 察て大神九と云べ船号を大神九と稱へ緯玉の點の魚を  
 昔と一大の點あるを宗とすこれらの由來と、と兩先  
 生の趣意を探りて十編おふ約結を成す

安政六未春熟稿  
 同七申春發兌

柳水亭種清述

大下七八編



三狸魂道と  
断て万利成  
公民ふ施を  
此の詔と知るを

三石將勝之偽女



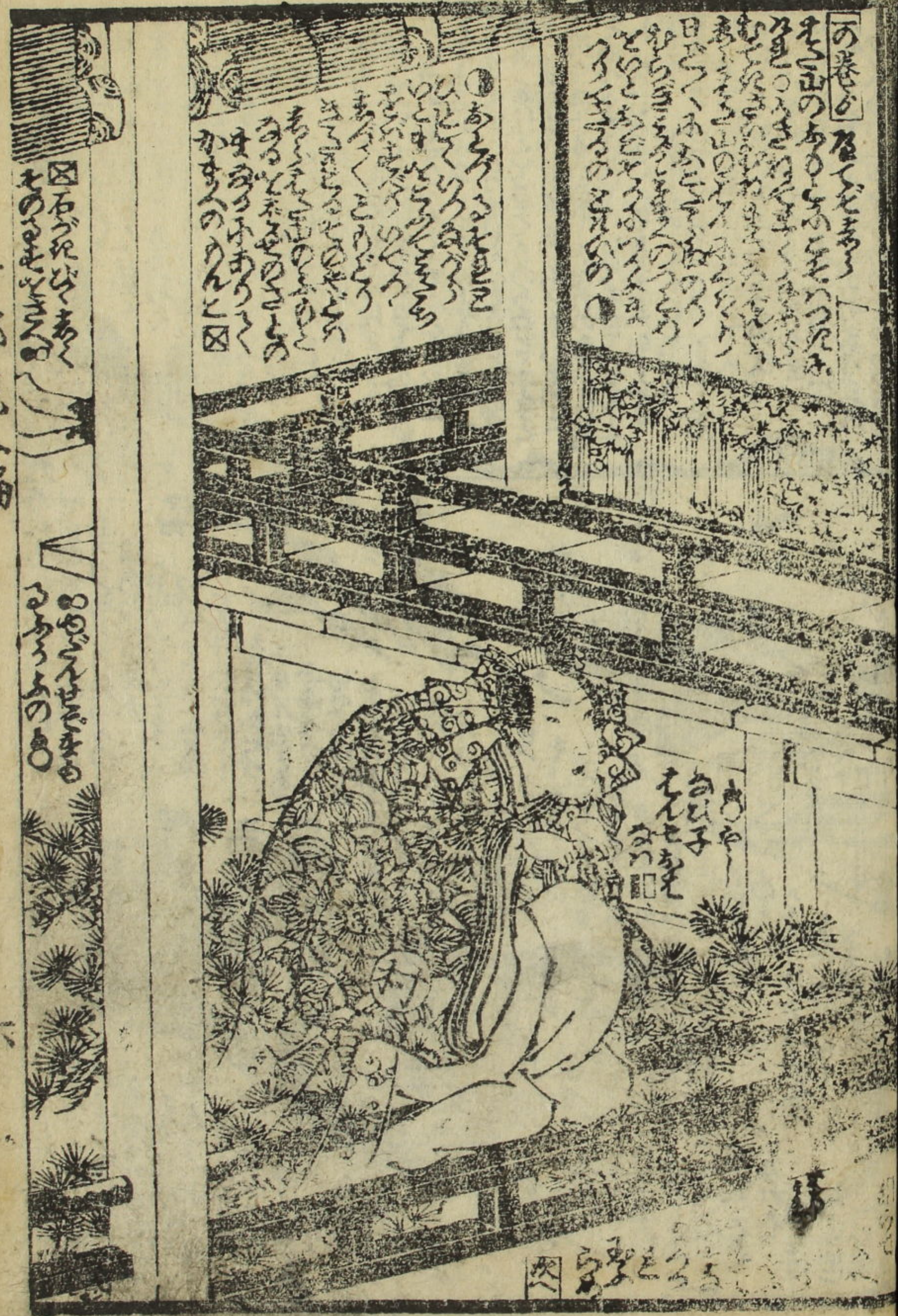
赤松則村之假身  
須摩御前之虚躰

女良子イハシ









石つねびくち  
そのまはりの

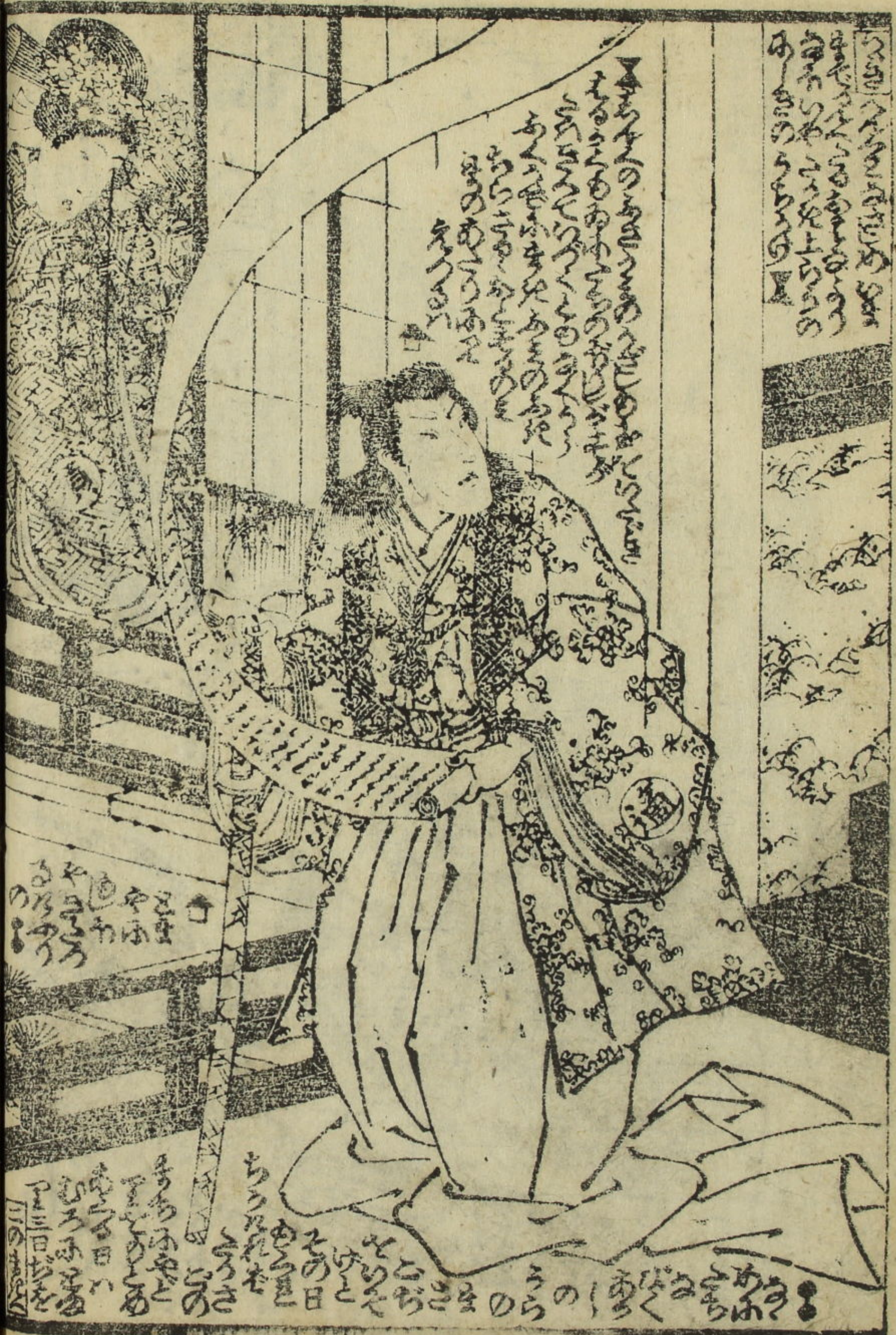
おのりまの  
おのりまの

あまのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの

の巻の  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの

あまのり  
おのりまの  
おのりまの

おのりまの  
おのりまの  
おのりまの



おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの

おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの

おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの

おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの  
おのりまの

女郎花

五









八十八歳

あつては

あつては

あつては

あつては

あつては

あつては



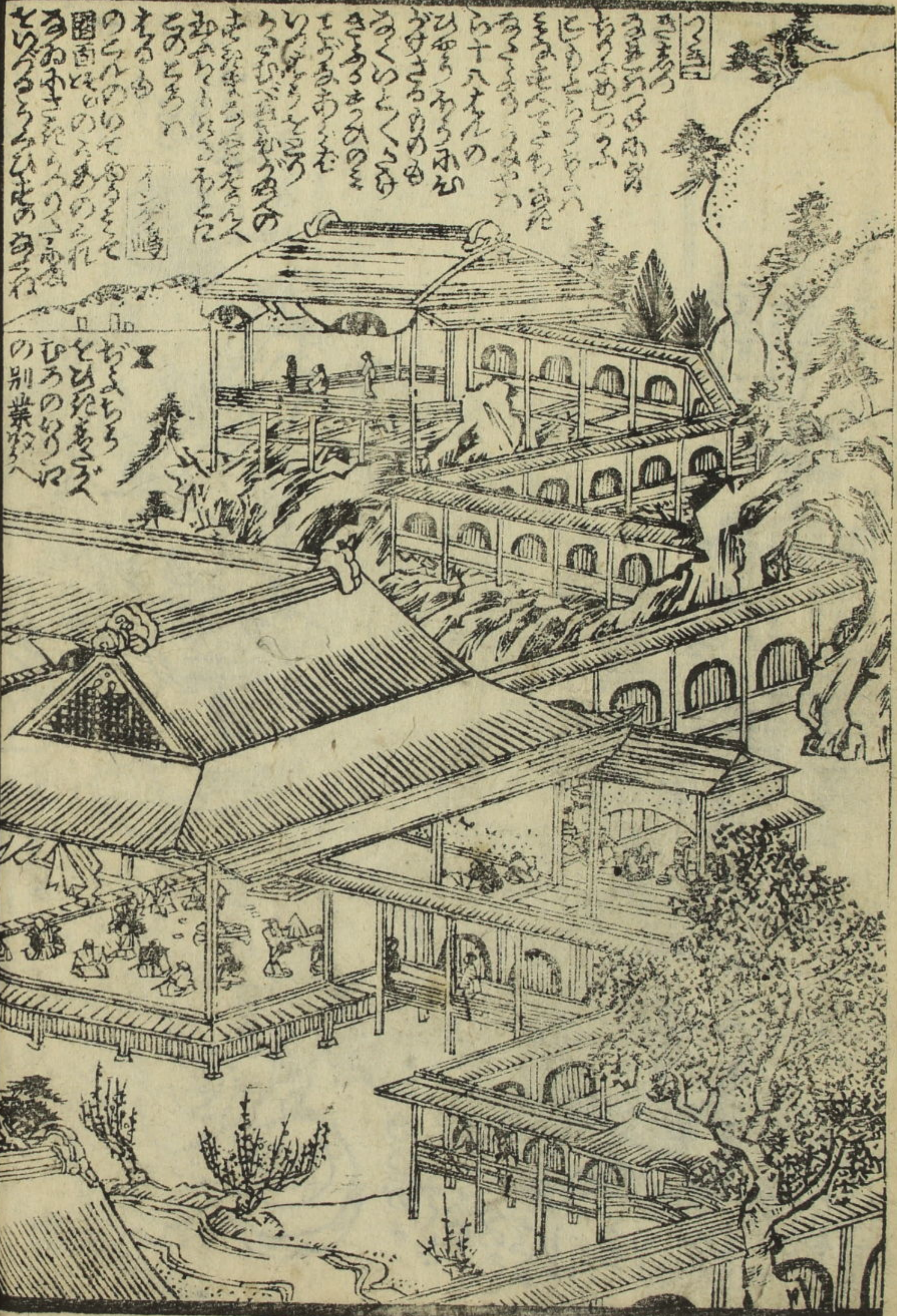
八十八歳

あつては

あつては

あつては

あつては



桂島  
おとついでくさ  
きとえののせ  
とついで

おとついでくさ  
きとえののせ  
とついで

大高島  
おとついでくさ  
きとえののせ  
とついで



大高島  
おとついでくさ  
きとえののせ  
とついで

おとついでくさ  
きとえののせ  
とついで

常盤  
おとついでくさ  
きとえののせ  
とついで

三

五

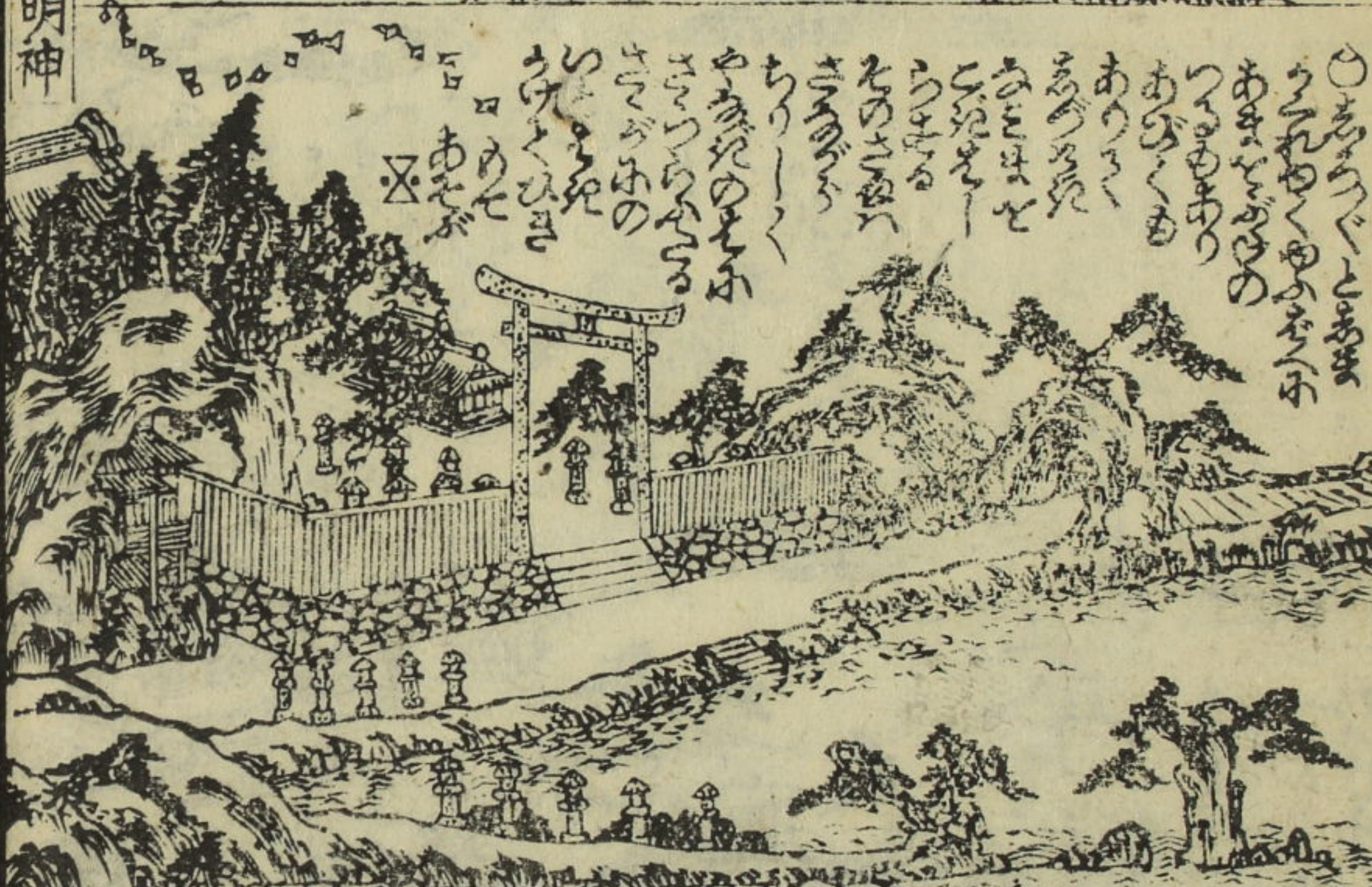


舟のり

此の老蚊が舟底へ  
 葉の二葉目より  
 舟帆の圖と符  
 樹て悟り  
 めせ

此の老蚊が舟底へ  
 葉の二葉目より  
 舟帆の圖と符  
 樹て悟り  
 めせ

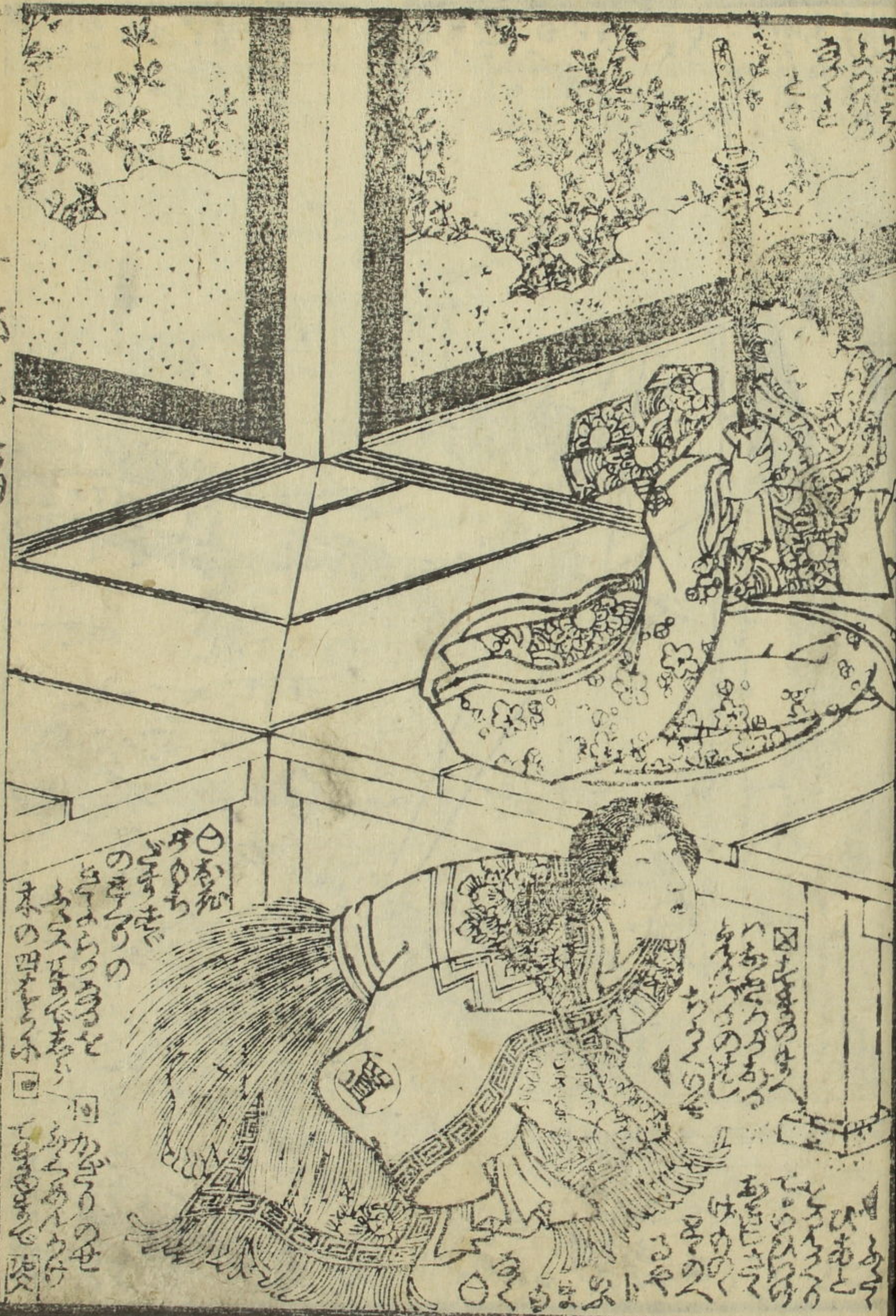
室明神



芳房補助

種清編次  
 國芳圖画

室明神の  
 御宇に  
 芳房の  
 御宇に  
 室明神の  
 御宇に



白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの  
 白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの  
 白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの

白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの  
 白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの



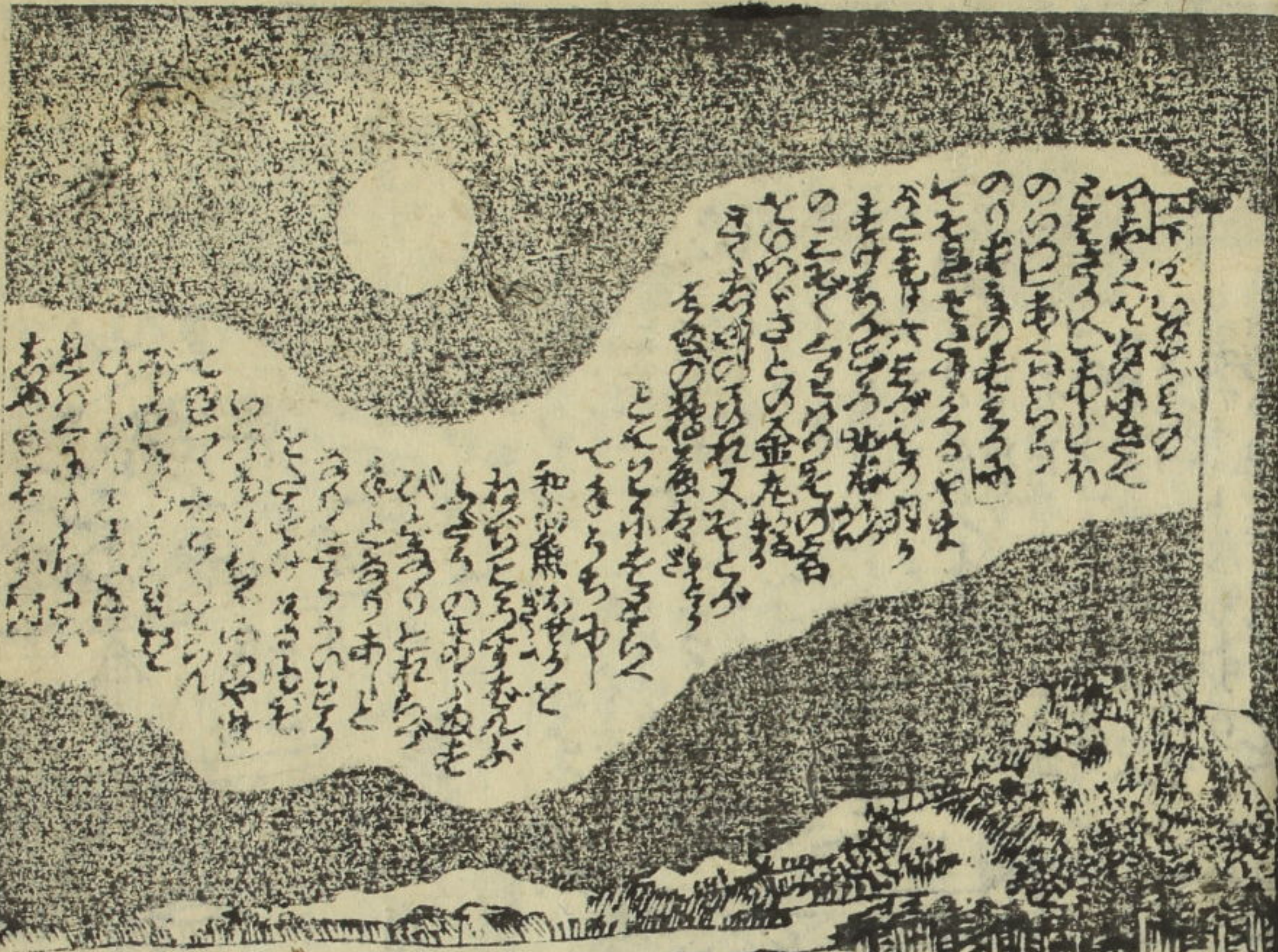
南極星  
 とすまの  
 白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの

白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの  
 白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの

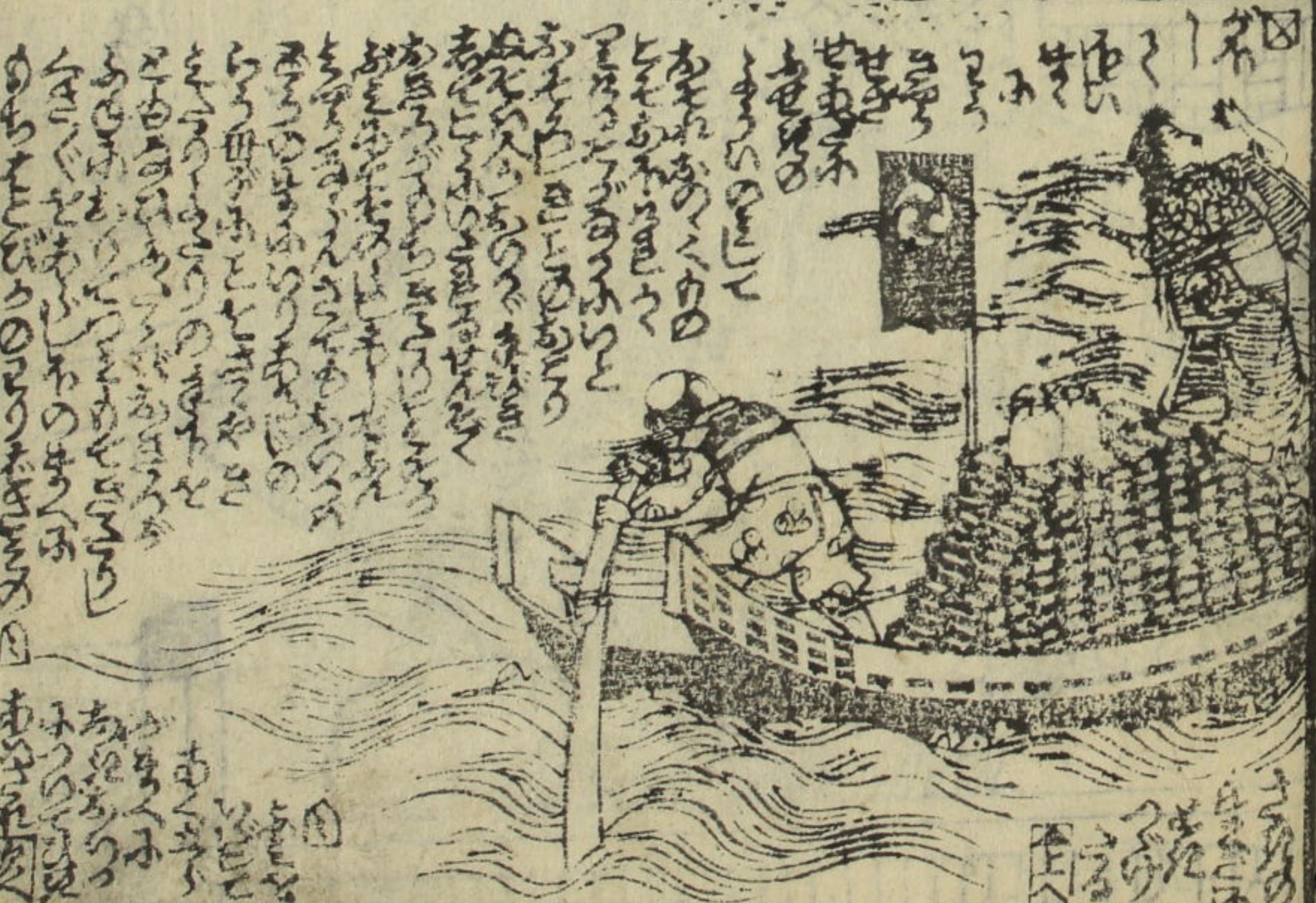
白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの

白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの  
 白を  
 タウチ  
 のまじり  
 とすまの





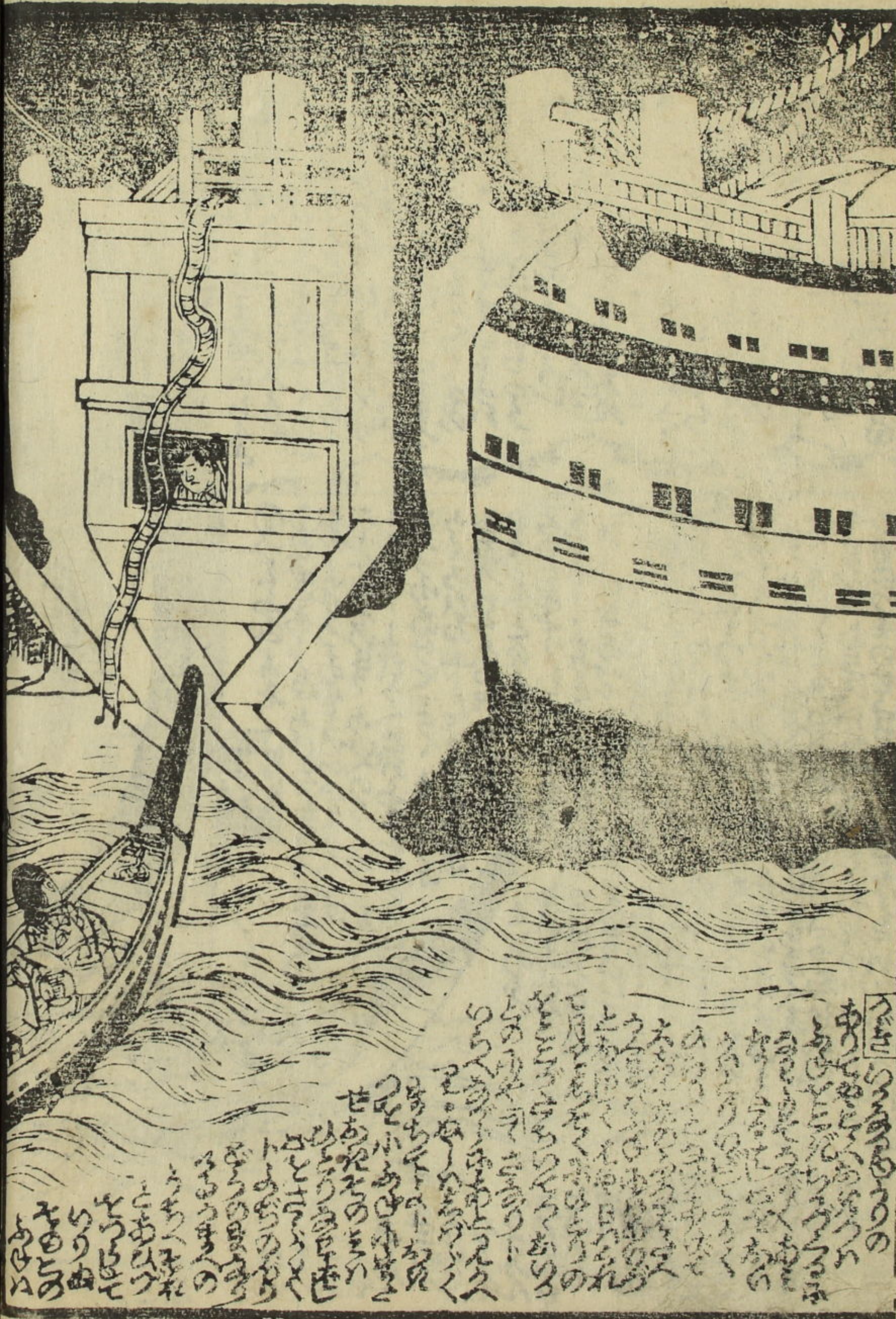
月下に舟の  
さざめく音と  
のどかなる  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと



舟のなか  
の静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと

下巻

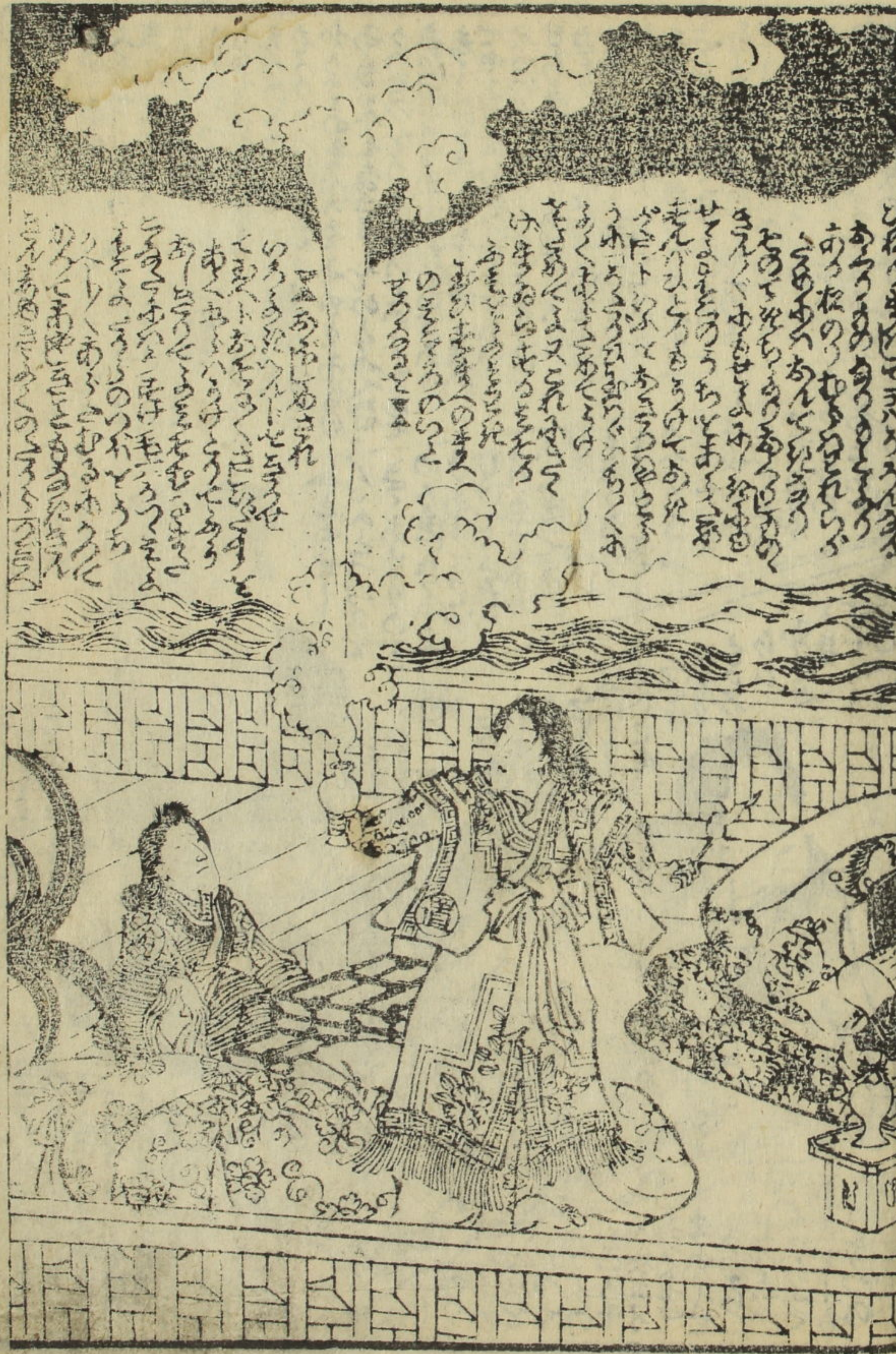
下巻



舟のなか  
の静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと  
こゝろの静けさ  
を思ふと

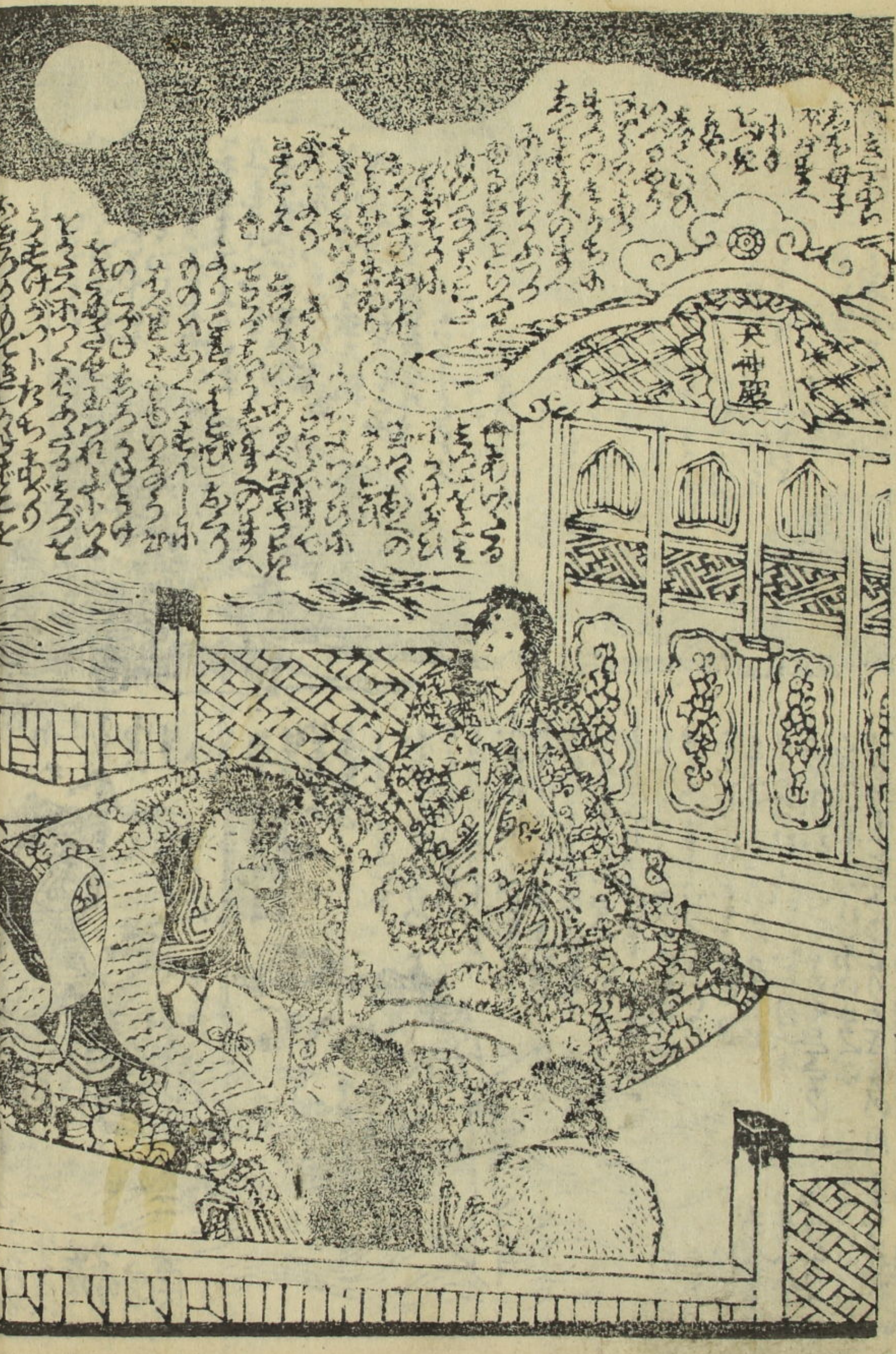
下巻

下巻



あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ

あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ



あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ  
あはれなるものなれ

四



女将一人

三ツ  
 八ツ  
 一ツ  
 二ツ  
 三ツ  
 四ツ  
 五ツ  
 六ツ  
 七ツ  
 八ツ  
 九ツ  
 十ツ

一ツ  
 二ツ  
 三ツ  
 四ツ  
 五ツ  
 六ツ  
 七ツ  
 八ツ  
 九ツ  
 十ツ

一ツ  
 二ツ  
 三ツ  
 四ツ  
 五ツ  
 六ツ  
 七ツ  
 八ツ  
 九ツ  
 十ツ

一ツ  
 二ツ  
 三ツ  
 四ツ  
 五ツ  
 六ツ  
 七ツ  
 八ツ  
 九ツ  
 十ツ

一ツ  
 二ツ  
 三ツ  
 四ツ  
 五ツ  
 六ツ  
 七ツ  
 八ツ  
 九ツ  
 十ツ



一ツ  
 二ツ  
 三ツ  
 四ツ  
 五ツ  
 六ツ  
 七ツ  
 八ツ  
 九ツ  
 十ツ

一ツ  
 二ツ  
 三ツ  
 四ツ  
 五ツ  
 六ツ  
 七ツ  
 八ツ  
 九ツ  
 十ツ





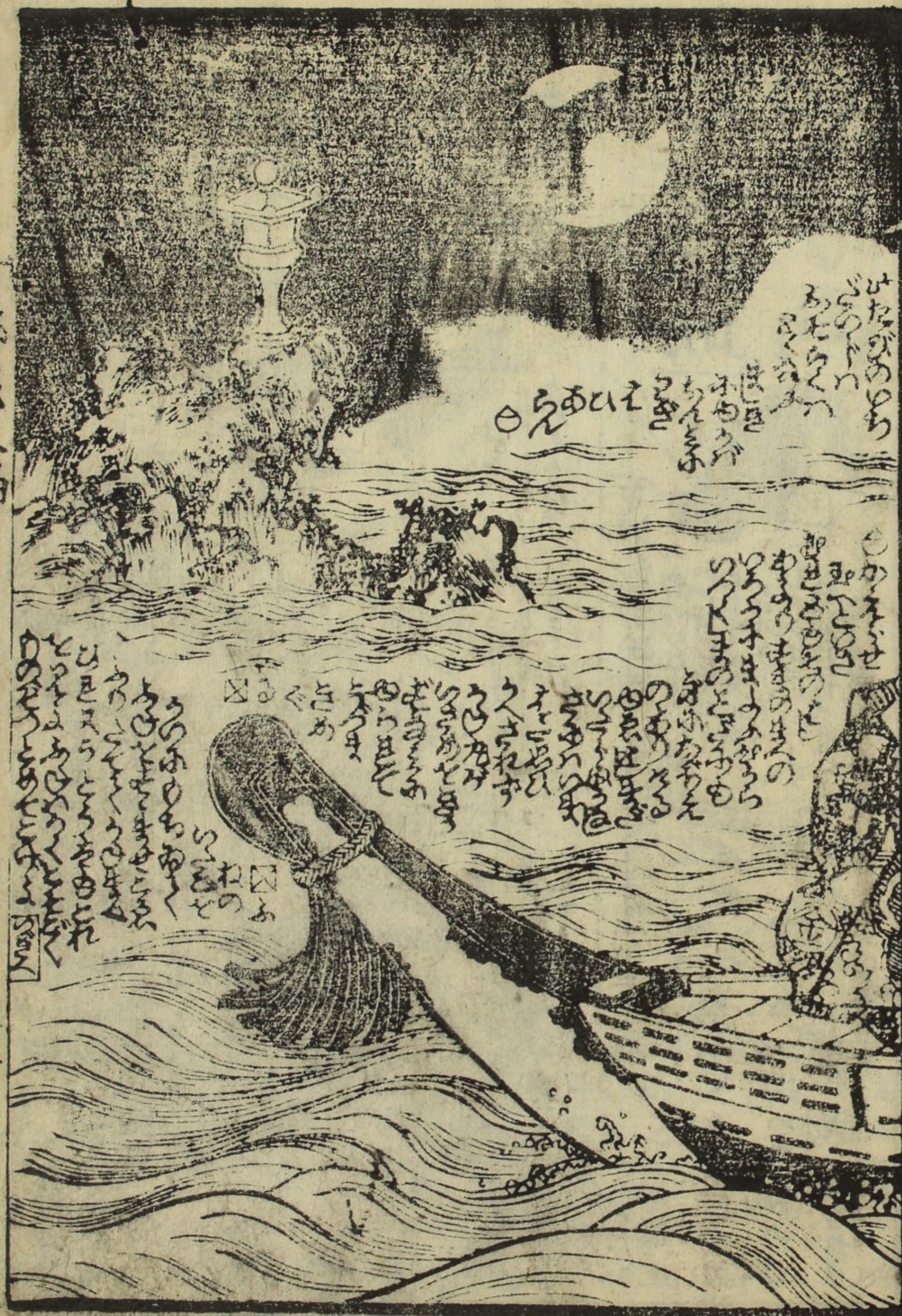
Handwritten vertical text on the left margin of the left page.



Handwritten vertical text on the right margin of the right page.







月夜舟

月夜舟  
舟中  
舟人  
舟客

舟中  
舟人  
舟客

舟中  
舟人  
舟客

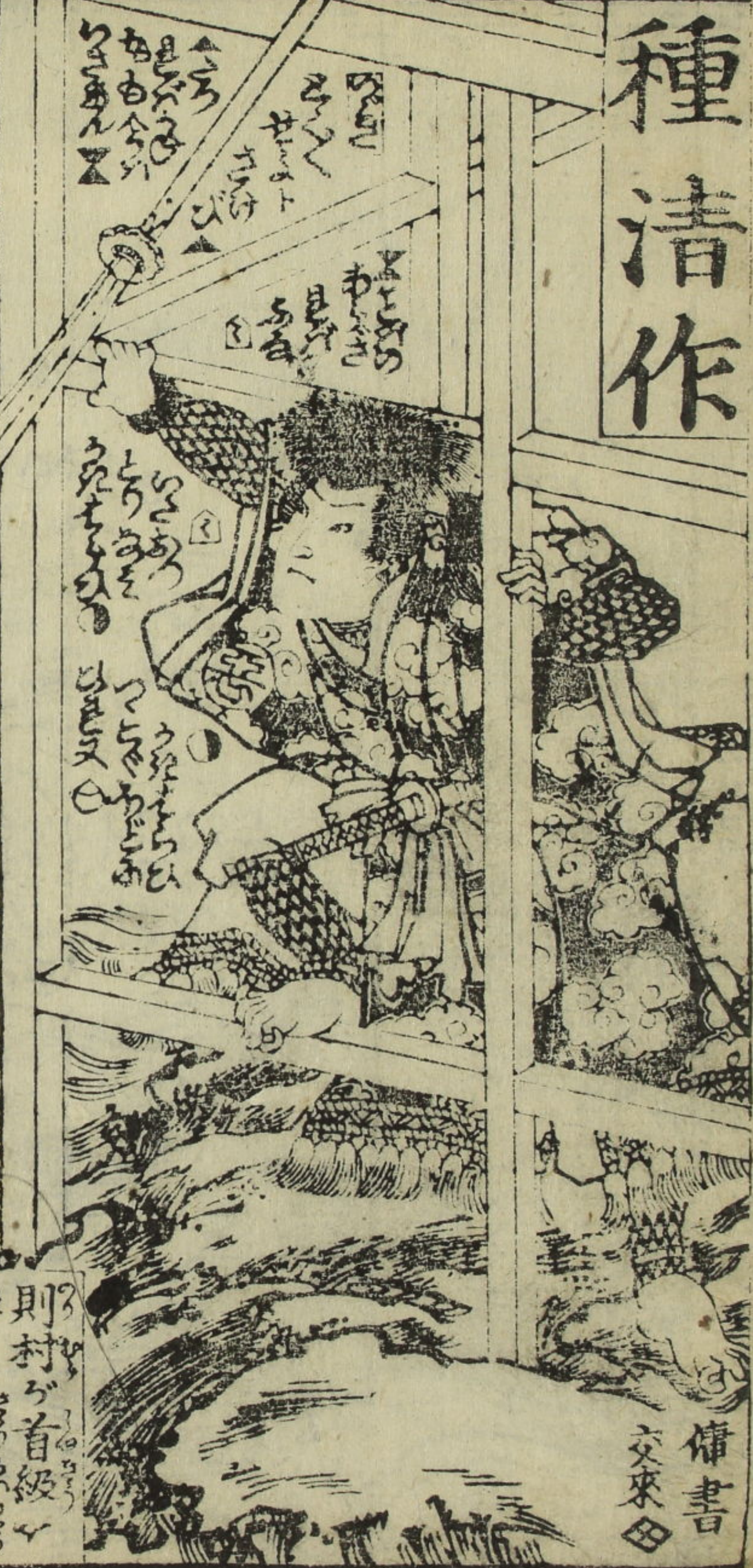


月夜舟  
舟中  
舟人  
舟客

月夜舟  
舟中  
舟人  
舟客

月夜舟  
舟中  
舟人  
舟客

種清作



備書  
文來田

芳房補助  
國芳画



則村が首級  
視せと蒼海王  
透容の  
緯ハ九編の口  
小説譯あり

兒雷也豪傑譚

廿四編  
廿五編  
廿六編  
廿七編

柳下亭種員作  
一雄齋國輝画

楠二代軍記二編

海望亭作  
芳虎画

櫻紅葉命棧

二冊切

琴彦作  
芳希画

新編金瓶梅

十編  
大尾  
馬琴作  
豐國畫

假名一休草紙  
反古

五編六編七編  
島羊堂山

柳下亭種員作  
一雄齋國輝画

地本錦繪問屋

芝神明前  
甘泉堂和泉屋市兵衛板

創刊

